

加藤栄三、東一画伯の素描



加藤栄三、東一画伯の代表作の素描などが並ぶ企画展
＝岐阜市神田町、G's Dream

岐阜市で企画展

岐阜市出身の日本画家、故加藤栄三、東一兄弟の素描や下絵を紹介する企画展が、岐阜市神田町の岐阜信用金庫施設「G's Dream」で開かれている。加藤栄三・東一記念美術館（同市大宮町）が所蔵し、ぎふしん記念財団の助成によって修復された代表作を中心に14点を展示。制作過程や苦悩の跡を浮かび上がらせている。28日まで。

会場には、東一の「風神」の素描2点や、鶴をモチーフにした金閣寺大書院障壁画の素描などが並ぶ。それぞれ本画の写真が添えられており、表情やポーズが完成までに大きく変化していることが分かる。同美術館の山本真一館長は「モチーフの特徴を理解しようと試行錯誤している変遷が読み取れる」と語る。

栄三の作品では、帝展初入選作「夏日小景」の大きな絵が目を引く。本画は太平

洋戦争の岐阜空襲で焼失してしまい、戦災を免れた貴重な一枚だ。

23日には同施設で山本館長によるギャラリートークが開かれ、子どもや初心者向けに日本画の鑑賞の楽しさを伝える。午前11時から、参加無料、事前予約制で定員20人。同施設ホームページから申し込みフォームにアクセスできる。

（田代理加）